

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 60261288 A

(43) Date of publication of application: 24.12.85

(51) Int. Cl

H04Q 3/52

(21) Application number: 59117972

(71) Applicant: MEISEI ELECTRIC CO LTD

(22) Date of filing: 08.08.84

(72) Inventor: SHIGETA YUKIO
KATSUYAMA KAZUO

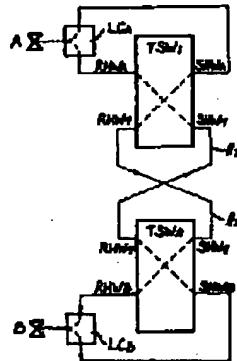
(54) CHANNEL EXTENSION METHOD OF TIME
DIVISION SWITCH

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio

(57) Abstract:

PURPOSE: To increase easily the number of channels by providing time division switches whose transmission-side highways and reception-side highways are so connected crosswise that one transmission-side highway is connected to the other reception-side highway.

CONSTITUTION: Voice transmitted from a telephone set A is encoded and is subjected to 2 wire-4 wire conversion by a line circuit LCA. This voice passes a transmission-side highway SHWA of a switch element TSW₁, a reception-side highway RHWA of the element TSW₁, a link connecting line l₂, and a reception- side highway RHVB of a switch element TSW₂ successively and is inputted to a line circuit LCB of a telephone set B and reaches the telephone set B. Similarly, voice transmitted from the telephone set B passes the circuit CLC, the highway SHWB, the highway RHW₇, the link connecting line l₂, the highway SHW₇, and the highway RHWA and reaches the telephone set A.



⑩日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

⑫公開特許公報(A) 昭60-261288

⑬Int.Cl.

H 04 Q 3/52

識別記号

101

庁内整理番号

8125-5K

⑭公開 昭和60年(1985)12月24日

審査請求 有 発明の数 2 (全4頁)

⑮発明の名称 時分割スイッチのチャンネル拡張方法

⑯特 願 昭59-117972

⑰出 願 昭59(1984)6月8日

⑱発明者 重田 幸男 東京都文京区小石川2丁目5番7号 明星電気株式会社内
⑲発明者 勝山 一夫 東京都文京区小石川2丁目5番7号 明星電気株式会社内
⑳出願人 明星電気株式会社 東京都文京区小石川2丁目5番7号
㉑代理人 弁理士 谷山 輝雄 外3名

明細書

1.発明の名称

時分割スイッチのチャンネル拡張方法

2.特許請求の範囲

1 複数の時分割スイッチ素子それぞれの一部のハイウェイを、一方の送信側ハイウェイが他方の受信側ハイウェイに互に接続されるようにして交差状に結合した時分割スイッチのチャンネル拡張方法。

2 複数の時分割スイッチ素子それぞれの一部のハイウェイを、一方の送信側ハイウェイが他方の受信側ハイウェイに互に接続されるようにして交差状に結合し、かつ交差状に結合した経路中にリンクとして使用するチャンネルを指定するためのチャンネルゲートを設けた時分割スイッチのチャンネル拡張方法。

3.発明の詳細な説明

(本発明の技術分野)

本発明はデジタル電話交換機又はデジタルオプション電話装置等、デジタル電話装置のスイッチネ

ットワークに使用される時分割スイッチのチャンネル拡張方法に関するものである。

(本発明の技術背景)

集積回路(IC)化された時分割スイッチ素子の一般的なものは、32チャンネルの容量のハイウェイが8本で構成され、従って1個の素子で256チャンネルのスイッチネットワークが構成できる。

上記より更に多くのチャンネルを必要とする場合、一般的には時分割スイッチ素子に更に多くのハイウェイを設けるか、又はハイウェイ当たりのチャンネル数を多くすることが考えられるが、この方法は時分割スイッチ素子の汎用性が薄れて実用的ではない。

(本発明の目的)

本発明は、以上にかんがみ、汎用的な時分割スイッチ素子を複数個用いて極めて簡単にチャンネル数が拡張できる方法を得ることを目的とする。

(本発明の概要)

本発明は、以上の目的のために、複数の時分割スイッチ素子の一部のハイウェイを時分割スイッ

チ電子相互間を連結するリンクとして使用するように構成したものであり、また、時分割スイッチ電子間を結合した（リンク結合した）ハイウェイのチャンネルのうちから更にリンクとして使用するチャンネルを指定して使用するよう構成したものである。

（本発明の実施例）

第1図はリンク結合したハイウェイの全てのチャンネルをリンクとして使用するよう構成した実施例のプロック図、第2図はリンク結合したハイウェイの一部のチャンネルをリンクとして使用するようした実施例のプロック図、第3図は互に異なる時分割スイッチに収容された電話機相互間の通話経路を説明する図、第4図は他の実施例のプロック図である。

まず、第1図に示す実施例を説明すると、複数の時分割スイッチ、実施例では2個の時分割スイッチ TSW_1 , TSW_2 は汎用のもので例えば前記のようにならに8本のハイウェイで1ハイウェイ当たり32チャンネルを有する素子を使用するものとする。8

TSW_2 のハイウェイに接続された電話機Bとの間での通話経路を示している。尚、電話機Aの収容ハイウェイを RHW_A (受信側) 及び SHW_A (送信側) で示し、電話機Bの収容ハイウェイを RHW_B (受信側) 及び SHW_B (送信側) で示す。

電話機Aから送出された音声はライン回路 LC_A で符号化（デジタル信号に変換）及び2線→4線変換され、第1のスイッチ素子 TSW_1 の送信側ハイウェイ SHW_A 、第1のスイッチ素子 TSW_1 の受信側ハイウェイ RHW_1 、リンク結合線 L_1 、第2のスイッチ素子 TSW_2 の送信側ハイウェイ SHW_B 、第2のスイッチ素子 TSW_2 の受信側ハイウェイ RHW_2 を順次たどって電話機Bのライン回路 LC_B に入力され4線→2線変換及び復号化（アナログ信号に変換）されて電話機Bに達する。同様にして電話機Bから送出された音声は「 $LC_B \rightarrow SHW_B \rightarrow RHW_2 \rightarrow L_1 \rightarrow SHW_A \rightarrow RHW_A \rightarrow LC_A \rightarrow A$ 」のようにして電話機Aに達する。

上記通話経路について指定される各ハイウェイでのチャンネルは、対である送信側と受信側（例えば RHW_A と SHW_A ）は同一チャンネルが指定される

本のハイウェイはそれぞれ送信側ハイウェイ $SHW_0 \sim SHW_7$ と、受信側ハイウェイ $RHW_0 \sim RHW_7$ で構成され、第1の時分割スイッチ素子（以下、スイッチ素子という。） TSW_1 の第8の送信側ハイウェイ SHW_7 とスイッチ素子 TSW_2 の第8の受信側ハイウェイ RHW_7 とが接続され、第1のスイッチ素子 TSW_1 の第8の受信側ハイウェイ RHW_7 と第2のスイッチ素子 TSW_2 の送信側ハイウェイ SHW_7 とがそれぞれリンク結合線 L_1 , L_2 で交差状に結合されており、この実施例では第8のハイウェイのチャンネルの全部、すなわち32チャンネルがリンクとして使用される。従って電話機、各種トランク等が接続できるリンク数はそれぞれのスイッチ素子 TSW_1 , TSW_2 について7本であり、これらによつて使用できるチャンネル数は448チャンネルである。

以上のように構成した時分割スイッチによる通話経路について第3図で説明する。

第3図は、第1のスイッチ素子 TSW_1 のハイウェイに接続された電話機Aと第2のスイッチ素子

が、互に異なるハイウェイ間の指定は任意である。尚、このチャンネル指定については第2図及び第4図に示す実施例でも同様である。

次に第2図に示す実施例を説明すると、この実施例は前記第1図の実施例のリンク結合線 L_1 , L_2 に、リンクとして使用するチャンネルを指定するためのチャンネルゲート CG_1 , CG_2 を設けたものである。すなわち、例えば交換機の中央制御装置から送出されるチャンネル指定情報によって当該チャンネルゲート CG_1 , CG_2 が導通し、上記チャンネル指定情報の到来時毎にスイッチ素子 TSW_1 , TSW_2 間の通信路が形成される。

この第2図の実施例ではチャンネル指定情報で指定されるチャンネル（以下、リンクチャンネルという。）以外のチャンネルは通常の通話チャンネルとして使用できる。従って、例えばリンクチャンネルを10チャンネルとすれば他の22チャンネルは通話チャンネルとことができ、交換機等の呼出から多くのリンクチャンネルを必要としないときのチャンネルの節約に好都合である。

特開昭60-261288(3)

記第3図の説明で容易に理解できるのでここで改めて説明しない。

以上の実施例は、いずれもスイッチ素子が2個の場合の実施例であるが、更に多くのチャンネル数を必要とするときには例えば第4図に示すように次々とスイッチ素子をリンク結合していくべき。

(本発明の効果)

以上に説明した所から明らかなように、本発明によれば汎用的なスイッチ素子の使用で極めて簡単にチャンネル数が拡張でき、本発明は極めて大きな効果を奏するものである。

4. 図面の簡単な説明

図面はいずれも本発明の実施例を示すもので、第1図、第2図及び第4図はそれぞれ実施例のブロック図、第3図は実施例の通話経路を説明するブロック図である。

(主な記号)

$TSW_1, TSW_2, \dots, TSW_n$ … 時分割スイッチ素子、
 $RHW_0 \sim RHW_7, RHW_A, RHW_B$ … 受信側ハイウェイ、
 $L_1, L_2 \dots$ リンク結合線、
 $CG_1, CG_2 \dots$ チャンネルゲート。

第2図に示す時分割スイッチでの通話経路は前

$RHW_0 \sim RHW_7, RHW_A, RHW_B$ … 受信側ハイウェイ、
 $L_1, L_2 \dots$ リンク結合線、
 $CG_1, CG_2 \dots$ チャンネルゲート。

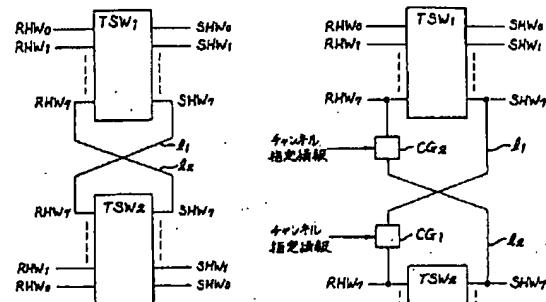
代理人 谷山輝雄

本多小平

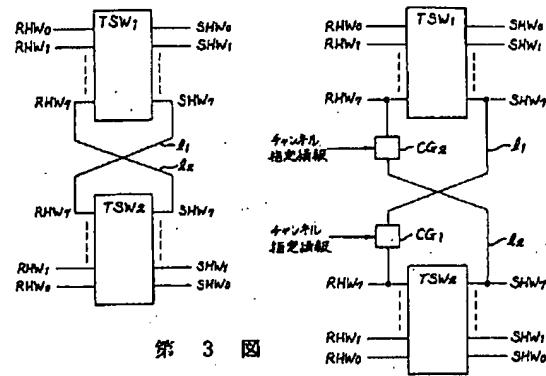
岸田正行

斎部興治

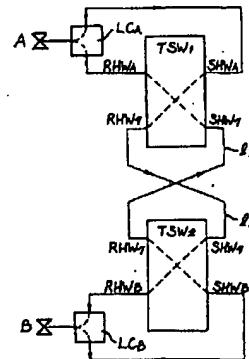
第1図



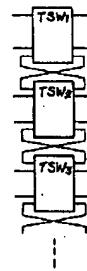
第2図



第3図



第4図



手続補正書

補正書

昭和60年7月11日

特許庁長官宇賀道郎 殿

本願明細書中下記事項を補正いたします。

1. 事件の表示

昭和59年特許願第117972号

記

2. 発明の名称

時分割スイッチのチャンネル拡張方法

1. 第4頁13行目に

「リンク数」とあるを

「ハイウェイ数」と訂正する。

3. 補正をする者

事件との関係 出願人

住所(居所) 東京都文京区小石川2丁目5番7号

氏名(名称) 明星電気株式会社

代理人 谷山輝雄

4. 代理人

住所 東京都千代田区丸の内2丁目6番2号丸の内八重洲ビル330

氏名 (3667) 谷山輝雄

5. 補正命令の日付

昭和 年 月 日

6. 補正により増加する発明の数

7. 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の部

8. 補正の内容 別紙のとおり

